

「人生 100 年時代のフロンティア県・香川」実現計画推進懇談会議事録（要旨）

日時：令和5年11月22日（水）14:00～15:40

場所：香川県庁本館21階 特別会議室

〔委員〕

2点お願いしたいことがある。

交通安全母の会連合会の会長として出席しているが、毎日、四国新聞紙上に記載があるとおり、今年は去年より3人多い28人が亡くなっている。人口10万人あたり3人と、先日までは全国ワースト1位であった。その中身を見てみると、自転車乗車中に6人が亡くなり、6人ともヘルメット非着用であった。統計を見てみると、15年間で自転車乗車中に158人が亡くなって、約97%の153人がヘルメット非着用であった。

人の命は、人生100年時代のフロンティア県として一番大事なことでないかと考える。東かがわ市では、ヘルメット着用に取り組んでおり、約800日も死亡事故ゼロが続いている。これを香川県全体で同様に取組みを考えていただきたい。

ここで二つのご提案をする。

一つは、今年4月1日からヘルメット着用が努力義務となったが、県民全ての人がヘルメットを被るよう香川県で条例を作ってほしい。これによって、自転車乗車中に亡くなった6人の方が助かるのではないか。ヘルメットを被っていないということは、安全意識がとても低いということである。

二つは、中学校ではヘルメットを被っているが、高校生になった途端に被らなくなるので、高校生へ補助金を出して、ヘルメットの購入を支援してほしい。私は三本松高校の皆さん、先生方、そして生徒会等とお話したが、支援いただけないかと言う生徒もいた。

命を守るために、この二つのことをぜひご支援をお願いしたい。

もう1点、男女共同参画が今年30年を迎える。男女共同参画のいろいろな支援を池田知事さんはじめ本当に頑張っていていただいていた大変も嬉しいことだと考えている。一方、内閣府と厚生労働省の統計を見ると、家事・育児・介護に男性があまり関わっていない。これを見ると、お金の支援はもちろん大事だが、夫が家事・育児・介護にほぼ関わらない家庭では、子どもを産んでいるのは0.9%だけである。しかし、6時間以上関わっている家庭では、80%が子どもを産んでいる。家事・育児・介護における男性の参加をお願いしたい。

また一方で、育児教育支援の提供と育児教育サポートをぜひお願いしたい。メディア教育の公共イベント、そして育児クラス、カウンセリングサービスやコミュニティサポートをお願いしたい。

〔委員〕

全体的な感想としては、世論調査の重要度・満足度の内容が記載されていたり、④の「施策を構成する事業から見た評価」についても分かりやすく説明されていたりする点など、県民としての納得感に繋がる、充実したものだと感じている。

その上で質問が2つと意見が2つある。

まず質問の一つ目は、行政評価の目的・メリットとしては、コストの削減や職員の意識改革などがよく挙げられるが、本県でコスト削減としてはどれくらいが見込まれたのか、或いは職員の意識改革としてはどのような効果があったのか、それ以外にも、この行政評価を作成することで効果があったというものを教えていただきたい。

質問の二つ目としては、他県との比較・全国的な位置付けについて、交通事故（p. 75-76）や学校教育（p. 153-156）に関しては細かく記載されているが、香川県の施策の傾向として、香川県の独自の強みであるとか、少しここは弱いと思えるようなことが行政評価の結果として出ているのであれば教えていただきたい。

次に意見の一つ目だが、159ページのところで、県政世論調査の記載がある。男女間の意識が記載されているところだが、これはおそらく結婚をされた方を前提とした調査だと思う。しかし、若い世代によっては、この男女間の捉え方が少しずつではあるが、変わりつつあるのではないかと思っており、未来に向けた、少し良い情報などもご提供いただきたい。

次に意見の二つ目だが、4ページの「保育所等利用待機児童数」についてである。課題のところで、地域ごとにばらつきがあるというような、そういう表現があるが、この地域ごとにどのような状況なのかというような詳細な記載或いは資料がなかったのも、もしこれを課題とするのであれば、もう少しそのあたりも意識したものにしてもよいのではないか。

〔委員〕

指標の進捗率の評価のところ、A～D評価で評価しており、それぞれ分析を右側に書いているが、例えばD評価であれば分析だけではなくて、そこからどういうアクションを起こすのかが見えてこないのも、これからどういう対応策をとるかということ、特にD評価のものについては知りたい。

その上で、人口を100万にしていくということなので、子育て支援や少子化対策がとても大事になってくる。

子育て支援の取組みについては、香川県は本当に他県と比べても、かなり充実してきたなということと、私も日々子育て家庭と対峙する中で、実感としても、子育て家庭が感じ始めているなということを感じている。

一方で、子育て支援イコール少子化対策ではなく、少子化対策という中では、これから結婚・出産する人達に、仕事があるか、経済的な支援があるか、働き口や住まいがあるか。そのような全面的な、全方向でのサポートが求められていると感じている。

特に働くというところの中で、女性活躍という分野で、昨日も香川県の事業で女性リーダー養成講座を取り組ませていただいた。

その中で、企業さんの中でも、中堅どころの女性が30人ほど集まって研修を受けていただいているが、自分がキャリアアップしたいと思っている、キャリアアップして上に行きたいと思ったときに、転職ができるかどうかというのが踏み絵になっているってことを発言された女性社員さんがいらして、私もです、私もですという声が続いて、未だにそういう企業さんがあるんだということを感じて、ショックを受けた。

まだまだ企業、これは香川県の取組みというよりは、県の方から企業さんの方に働きかけ、女性が長く、そしてキャリアアップしながら、子育てしながらもキャリアアップできるようにという支援、そして男性社員も同じように転勤、夫が転勤になったら妻が辞めて付いていくことが前提で、男の人の転勤ではそんな問題が起きないけども女性の方には問題が起きるといようなことを聞くと、男の人の会社、お父さん・夫が働いている会社は、妻側の会社にフリーライドしているというか、せっかくこの育ってきた、育ててきた優秀な女性社員が、夫側の転勤に付いていくという、そういう流れは決してあってはいけないと思うし、キャリアアップができる体制をぜひ企業さんに求めていきたいと思っている。

それとあわせて、保育についても充実させていただきたい。来年度から「誰でも通園制度」という制度が国で始まると思う。その辺りの受け皿として、保育の業界も懸念されていると思うが、保育園に入りたくても入れない子どもがいないように、今のうちから対策を打っていただきたい。

最後に一点、虐待のところで、性虐待、特に男性も含めての性虐待というところにも、意識的に香川県に取り組んでいただきたい。(p. 163-164) 今月はパープルリボンの月間だが、県庁のトイレに行っても、女性用の手洗いには、虐待や望まない性交渉を受けていませんかって書かれていても、男性用のお手洗いにはそういう掲示が貼られていないと思う。そうした小さなことから見直していただきたい。

〔委員〕

自主防災のカバー率の改善については、今年度、我々がかわ自主ぼうの重点施策の中にも入れている。3月までに三豊市の二つの小学校校区で自主ぼうを立ち上げてもらうよう取り組んでいる。地区防災計画の策定についても、かがわ自主ぼうとして支援しており、これも1月頃に一つの大きい地区からできる見通しである。

それから久しくコロナの関係で訓練が遠ざかっていた、避難者確保計画の策定が必要な障害者施設において、その中でも非常に厳しい避難ルートを持っている施設が、私が見た範囲では県内に2ヶ所あり、そのうち1ヶ所が来週、久しぶりに訓練をやりたいということで、お互いに意見が合った。ちょうど県道を跨いだ避難訓練となるので、所管の警察署にも行って支援をお願いしたところだが、非常に重度の障害者が入って、避難するのに相当早めに立ち上がっていないと洪水に巻き込まれる。平成16年の台風のときにも施設が半分以上浸かったという経緯があるので、しっかりサポートしていきたいと思っている。

とにかく私どもの立場としては、県民の防災に対する満足度を少しでもステップアップできるように、いろんな施策の内容を読んで、できる範囲でカバーリングをしていきたいと思っている。

中で少し気になったところは、河川内の草木の除去などというのを実施して欲しいという県民の要望が記載されている(p. 25)が、私のところの隣の一級河川である土器川でも、もう森の状態になっており、野犬の巣となっている。

高さも7mから8mくらいの立ち木があり、森の状態になっているので、この処理もお願いしたいと思う。それから2級河川の中でも、3mから4mの木が生えているところが散見される。水害対策上、これは何とか処理をしておいてもらった方が良くと思う。

所管事務所と地域がうまく連携できたら良いと考えている。私の方は古子川という2級河川もずっと年3回清掃しており、大きな草や木は生やしていないが、草はどうしても生えてくるので、それを除去して、水の流れを良くしようということをやっている。そういうことを所管の事務所と地域がうまく連携して、県内に広がっていったら良いと思う。

先週、防災の研修会があり鹿児島県へ行った。川内川（せんだいがわ）の流域では、行政と地域が非常にうまく連携している。7年前にも呼ばれたが、今でもきちんと連携プレーが続いていることが素晴らしいと思った。そういう辺りも少し観点において、行政を進めてもらったらありがたい。

〔委員〕

たくさん資料でなかなか読み切れず、分かっていないところもたくさんあるが、やはり今回、D評価になったところをどう改善していくのかというところがポイントだと思う。

例えば153ページだが、以前にも申し上げた、授業の内容がよく分かるか分からないかについて、半数ぐらいの子ども達分からないと回答している。そこをどう改善していくかという分析において、「話し合いが授業の内容の理解や、さらに課題を追求しようとする意欲に繋がっていないと考えられる。」と分析しているが、そうなのかと思いながら読ませていただいた。

今、学校では1人1台タブレット・パソコンを用いて、個別最適化の学び、それぞれ子ども達に合った学びの方法・スピードで進めているところだと思う。今までの学校であれば、一斉に、前に立った先生が同じスピードで同じ問題をみんなに解かせようとしていたために、分からない子は置いて行かれてそのまま進んでいってしまい、分かる子はどんどん分かるようになっていった。

これを改善していくために、1人1台のタブレット・パソコンを持って、それぞれ子ども達の進捗状況なり、学びたい学びができるようになることが追いついていないのかな、と分析させていただいた。

しかし、次のページの154ページの上のところ、そのICTの活用の指導がなかなか学校側で難しい状況が読み取れる。やはり学校の先生も、しなければならないということは分かってはいるが、そこが難しく、先生達がすごく苦勞されているということが数字に表れていると思う。

もちろん先生に頑張ってもらわなければいけないが、例えばICT活用した授業については思い切って、学生や大学生といった違う力を借りて、学校の授業に入り込んでもらうとか、先生だけにその負担をかける難しいのではと思った。

今日、四国新聞で、ある学校が昼休みの休憩時間に、地域の方が子ども達の相手をしたという記事を読んだ。その時間、学校の先生が違うことができるようにするために、地域の力は活用できているので、このICTに関しても、どうかその地域力だったり若い力だったり、もっと違うところから何かサポートができれば、先生の働き方の変化にも繋がってくるのではないかと感じた。

あと、157ページのさぬきっ子安全安心ネット指導員の派遣数がD評価となっているが、これはコロナ禍においてなかなかそういう学習会が持てなかったことが原因ということである。私は何年か前に、この会に出させていただいたときにもお話

させていただいたのだが、

新しく代わられた教育長にもぜひお聞きいただきたいと思うが、こういうネット関係の学習会をしているのは、県の教育委員会の中でも、この生涯学習・文化財課がやっているさぬきっ子安全安心ネット指導員の学習会と、義務教育課がしているものもあったり、総務課がしているものがあったり、また香川県内においては、県警がしているものがあったり、e-とぴあ・かがわがしているものがあったり、いろいろとあるので、何か横の繋がりを作ってコーディネートしていく人がいてもいいのではないか。その学校、その子ども、その保護者に合った指導や学習内容が進められれば、もっと効果が出てくるのではないかと考えた。ぜひ検討していただきたい。

〔委員〕

まず意見を2点言いたいと思う。

一つはハラスメント対応（p. 65-66）だが、これを見ると、人権尊重社会の実現と言いながら、どうしても人権同和教育という形で限定されており、それから女性の方についても、女性へのあらゆる暴力の根絶ということで、DVとかその辺は強調されているが、やはりハラスメントというのは、行為者に悪気がないとか気が付いてないということが多いので、女性も男性も含めて、これからは人権ということに関して、もう少しハラスメントの面で、しっかりと押さえていかないといけないと思う。

それから女性リーダーの養成（p. 160）について、このリーダーになった方の活用方法や活かす場について、今はネットワークづくりを推進していくということになっているが、せっかくいろんな知識は得たが、どうやってそれを活かしていくかということを考える必要がある。具体的な場ができれば良いと思う。

36ページで、「放課後児童クラブ等ICT化推進事業」や「放課後子ども環境整備等事業」とは、具体的にどんなことをしているのかお聞きしたい。

217ページで、「農地中間管理機構を通じて」というのは、どういうことなのか。農業の場合は、法人化をして、若い人達もその仕事として、休みも取れるし給料もある程度得られるという状況を実現しないといけないのではないか。大規模化でも良いが、法人化に向けてもう少し取り組んでいくと良いのではないかとと思う。

〔委員〕

私は経営者としての立場でお話しさせていただくが、企業誘致だけはもう絶対に必須条件だと思う。一方、香川県は非常に有効求人倍率が高く、人手不足は本当に大変であり、日々募集をかけている。

要は高齢者、女性、そして障害者、外国人といった多様な人材の活用ということが言われているが、今年の7月の新聞記事によると、専業主婦が3割を切った。ということは、働く意思のある女性はもう既に働いていると考えた方が良いと思う。なので、働く意思のある人はもう既に社会に出ていると思う。

では人手不足をどうするかと言えば、もう外国人に頼るしかないと思う。なので、その外国人の受け入れ体制の整備も必須ではないかと思う。

そのためにいろんなことをやらなければいけないと思う。少し飛躍するかもしれ

ないが、例えば海外への定期路線が高松空港から飛んでいることは、とても大事なことだと思う。Uターンも大事だが、外国からの人材を受け入れない状態で今後のことを考えると、不安でしょうがないくらい切羽詰まっている。

昨日私どもの手元に広報かがわが届いた。これを見ると、香川県が挑戦する三つの100計画というのが大きく取り上げられている。「100年時代」ということもさることながら、全て100と言っていることがすごく大事なんじゃないかと思う。全て100計画っていうのを言っていると、人間の頭って不思議と100が頭に入ってくる。100でこの香川県を洗脳していくことも大事かと思う。

〔委員〕

まず質問がある。今、漁師は大変数が減ってきている。平成10年から約30年の間に養殖漁業の方も一般的な海面漁業の方も半分まで減ってきている現状の中、新規就業者には、漁船や漁具を購入するに当たって初期投資が必要なので、県からの助成金があった。ところが、令和4年度にこれが廃止になった。(p.136) ©評価ということは、あまり活用ができていなかったということだが、具体的にどのような状況であったのかということを知りたい。令和5年度からは、同じような補助事業に移行したということになっているが、どのようになっているのか。

11月8日に海上保安庁の船と県の指導船でライフジャケットの推進運動を行った。時間帯がお昼から約1時間半ほどだったので、漁船があまり出でおらず、5隻か6隻くらいいた。その船の近くまで行って、マイクを通して、ライフジャケット着けていますかと呼びかけたのだが、ほとんどの人が着けていた。

ただ、どうしても仕事上邪魔になると考える人もいる。底びきであれば、エビを選り分けるため、下にうつむいて作業している時に、紐が邪魔になるということがある。指導船で近づいた時、タコツボ漁をしていた漁師さんは慌ててブリッジの方に行って「持っとるぞ」とライフジャケットを振って、すぐに着けてくれた。

ライフガードレディス香川っていうのを立ち上げてから、もう何十年にもなるが、これは全国で先駆けて香川が一番だったと聞いている。当初と比べると着用率も上がったし、また持っている方も増えた。当初は助成金がなかったが、途中から助成金ができ、ほとんどの漁師さんが着けている。

しかし、先ほども申し上げたように、邪魔になるからってブリッジに置いている方もいる。ライフジャケットの中には小さなガスボンベが入っているが、最初私も3年に1度ぐらいの交換で良いのかなと思っていたところ、本来は1年に1回交換してくださいっていうことだった。その交換分に対しては助成金がない。少額かもしれないが、毎年交換が必要だと大変なので、できたら少額でも構わないので助成をいただけるとありがたい。

〔委員〕

私は環境で23年頑張っていて活動しているが、私が移転して来たときに一番関心を持ったのは観光のことで、それで一時、観光に関する活動をしていた。その時、栗林公園とか屋島とか、それからクルージングを企画していた。

コロナの前だが、栗林公園に行っていていろいろ経験した。園を回って、座敷でお茶をいただいて、そして和船に乗ってという感じで観光した。その時に感じたこと

は、お茶席でお茶を飲むことは良いが、最近は体験型というものが増えているので、アウトドア的なお茶席も良いが、立礼（りゅうれい）とか野点（のだて）とか、そういうところに広がっていくような方法があれば、魅力があって良いと思った。

また、その時偶然、結婚式の前撮りをしていた。結婚式の衣装を着た花嫁がとても美しく、幸せをお裾分けいただいた気持ちになった。栗林公園での前撮りの魅力を広くPRできたら、良いと思って利用する方が増えるのではないかと思った。

栗林公園にしても屋島にしても、体験できる場所が近くにいろいろあると思う。例えば、うどんを打つお店があるので、そちらともタイアップして周遊できるルートを作って、紹介して、周遊バス券を作ったら良い。昔、私も旅行に行った時、周遊バスの旅行券を使ったことあるが、路線バスに乗れても良いし、その周遊バス券で皆さんが体験しやすく、そして知らないところでも、こういうのがあるんだって分かるような仕組みがあれば良いと思う。

テレビのクイズ番組を見ている、香川県の観光は評価が低くて出て来ない。10年後の香川県の姿について、高校生にアンケートをとった結果でも、香川県が全国有数の観光県になって欲しいと言っている。たくさん良いところがあるのに惜しいな、残念だなんていつも思っている。魅力ある観光地づくりに是非取り組んで欲しい。滞在することによって宿泊にも繋がるので、新しい旅行スタイルを作っていたきたい。

案内板とか地図とかへの外国語の記入がまだまだ少ないのではないかと考えている。ぜひこの点もお願いしたいと思う。

〔委員〕

文化芸術は毎回、評価のところで、重要度は無いが満足度はあるという、不思議な感じの領域である。香川県が文化について非常にたくさんの取組みをした結果、広がっていったし、それから深みもできている。瀬戸芸が入ることによって非常に高いところも広がりもできるし、かがわ文化芸術祭は地域にできるだけ広がっていくという方向で、全体としては動きとしては良い。

満足度もあまり期待してないからこうなるのかよく分からないが、例えば199ページとか202ページの県政世論調査の結果の意見を読ませていただくと、満足はしているが、その中の一部として、「文化芸術にふれる機会が少ない」というような意見がある。全体の意見の内容を知りたいというのはあるが、関わっている人達にとっては非常に広がっていると思っている。それでもまだ機会がないという、これをどの程度のものとして理解すればいいのか分からない。

それから「有名な芸術家にデザイン等を依頼するより、香川県出身で次世代の芸術家を育ててほしい。」とある。これは両方要るだろうと思う。つまり、依頼することも必要だし、それからもう一つ大きいのは、これからの香川県の文化芸術を育てるためには、どの分野でもそうだが、どうしても次の人材が要る。

文化芸術の方も、ここで育つ人達或いは外に出てもまた帰ってきてここで才能を表現していくという、そういう香川県出身の人材をどんどん育てないといけない。これが今後とも続けて欲しい部分で、非常に大切にしなければいけないと思う。

それから、総合評価の中で文化部活動の地域移行というところだが、スポーツ関

係では非常に先行して動いているところだが、文化部活動の方ではまだまだはっきりとした方向が出てきていない。(p.200) 今後、各教育と文化部活動がどういう形であったら一番良いのかということについて、ぜひ今後の課題として進めて行けたら良いと感じた。

もう一つ、大学については、県政世論調査の意見でも非常に厳しいものがある。(p.172, 174) 学生や大学に来る人にとって、若者達に魅力のあるものがないんじゃないかという言い方をされている。これはいつも私達にとって、どうすれば良いのか非常に悩ましい部分がある。何とか学生と若者達の要求というか、それは多分地域に住む方々の要求でもあるだろうし、今後この地域を引っ張っていく人達を育てるという意味からも非常に大きな意味がある。

これは以前にも言ったと思うが、こういうことについて、地域の方から大学へ意見が出て来ないということが非常に大きな問題ではないかと思う。だから香川県としては、大学教育に何が欲しいのかという方向が見えない。調査すると必ず若者の傾向に合っていないといった意見が出てくるが、それが何なのかということをして大学人だけに任せてしまっただけでは、やはり地域との連携というのは非常に薄くなっていくと思う。そういう意味から、こういう意見をぜひ大切に、何がこの地元の大学には必要なのかということについて、具体的な提言がどこかで出てこないかなと思う。

若者から選ばれる大学等の魅力向上ということを頑張っているわけだが、それは何なのか。それを本当に地域の住民として、考えているのかどうか。そのあたりが出てくると大学もやりやすいと思う。いつも見るたびに、何が要るのかなということも思っているので、県の方でも、ぜひその方向について提言していただきたいと思う。

〔委員〕

教育の方で気になることがある。

一つ目は不登校といじめについてである。いじめ問題については平成17年と19年はワーストだった。当時、私は校長会で、小学校の教員は時間的に大変厳しい中、担任の先生が子ども達と対峙するのは大変なので、退職した先生を活用してはどうかと提案した。大きい学校では、退職した先生を配置していただいた。おかげで、随分といじめの問題や不登校も減っているようだ。

しかし、まだまだ私の耳には問題が聞こえてくる。それには原因がいろいろある。先生との問題、スポーツとの問題、また、クラスの中で勉強がついていけないといった問題がある。小中高では、中学校が一番多い。教育県かがわとして、勉強だけでなく、学校が楽しいなと思える学校教育をお考えいただきたい。

やはり人づくりは教育である。もちろん家庭教育、学校教育、友達との関係、人格を育てる学校、そのような側面でもたぜひ県としても取組み・対策をお願いしたい。

二つ目は、東かがわ市男女共同参画会についてである。今年で30周年になる。家庭生活を含めたすべての分野で、男女が協力する社会、それには個性と能力を十分に発揮できる社会、これが男女共同参画である。今回はよくテレビでもおなじみの若手の先生である愛知医科大学の後藤礼司先生、特に心臓病や感染症の専門の先生

であり、無料で開催する運びとした。12月10日の13時半から15時、東かがわ市交流プラザで開催する。ぜひ香川県の方、そして有識者の方にぜひお友達を誘いの上、来ていただけたら、大変うれしく思う。10年に1回の講演会なので、ぜひご出席をお願いしたい。

〔委員〕

総論的な問題だが、重要度や満足度の記載がある。(p. 20) これは世論調査で順番を付けたようだが、満足度に関しては世論調査では良いが、重要度は世論から見た重要度であって、県がどういうことを重要だと考えているかということが出てきていない。県はどういうふうに考えているのか、県の重要度を表に少し表していただきたい。

53ページの事業42「死亡時画像診断システム等整備事業」は、事業費としてゼロになっている。人間が死んでからだと、その方の保険を使えない。結局どうして死んだのかということを知るため、死んでからCT検査をすることは、死因究明に非常に重要なことである。今これに関してはおそらく、医療機関が持ち出しでやっていると思う。県警もある程度予算を持っているが、非常に少ない。結局死んでからの死因究明をCTでしたいが、今はその費用がないということだと思う。こういうところに少し事業費を付けていただきたい。

健康な方を撮るCTで死んだ方のCTを撮るのは、なかなか嫌なこともある。大学に1台、死んでから撮るCTがあるが、おそらく各医療機関では、亡くなってぜひ死因が知りたい時には、持ち出しでCT検査をしている。それに対する補助をいただきたいと思う。

〔委員〕

世論調査結果や評価でDとなっているものなど、やるべきことはもう見えてきていると思う。そこを重点的にやっていただきたい。

一つ質問させていただきたいが、例えば評価がAであっても、県外からの移住者で非常に良いと言っても、その定住率が実際どういうふうになっているのか、継続してずっといるのか、もしかしたら1年で出て行ってしまっている可能性はないのか。(p. 88) また、ソフトで言えば、例えば女性キラサポ宣言を取る企業数が増えても、中身はどうなのかとか、そういった部分が見えないので教えて欲しい。

(p. 110)

あと、県外観光客数もこれから増えていくと思うが、やはりリピーター確保が大事だと思う。また来たいと思わせるような工夫としては、どのようなことがあるのか。よく言われているのは、せっかく来ても夜には早く店が閉まっている、どこにも行く所がないみたいな。外国人観光客にも、昼は見る所がたくさんあるが、夜は何もないんだっていうのが、風評で広がると良くない。

また、前から観光で言っているが、瀬戸芸は有名だが、やはり香川しかない、オンリーワンな何かイベントをやってもらえないかということはずっと思っている。そうすることによって、アジアとの直行便やチャーター便もあるが、他の県ではやってないようなチャーター便、例えばアメリカやヨーロッパに繋がるのではないか。お金もかかるし、飛行機の大きさの問題もあるかもしれないが、観光は国交省

出身の知事の得意分野だと思うので、そのあたりを取り組んで欲しい。

それと県政世論調査について、年代構成はどうなっているのか。総合計画の見直しでは高校生の意識調査をしていたので、若い人達の声もこういう施策に活かした方が良い。

今日こう見ると、みんなタブレットをたくさん持っている。紙の資料について、可能な人であれば、僕はもう大丈夫なので、PDFで送っていただければ自分でiPadなど何かしら持って行って見ることもできるので、少しでも紙を少なくできると思う。その辺もご検討いただきたい。

〔知事〕

自転車でのヘルメットの着用について、特に高校生に対しては重要だと思う。今、どういう手が打てるのか大至急検討しているので、形にしていきたいと思う。

行政評価の効果やここから見える香川の強み弱みについてご質問いただいた。香川の強み弱みは、10ページに出ていると思う。香川に進出した企業の方に、マスコミの方がどうして香川ですかって聞くと、一番にはやっぱり災害が少ないのということ挙げられる。やはりここで見ても、「防災・減災社会の構築」や「安全で安心できる暮らしの形成」に多くのA評価が付いているのは、これはもう香川の魅力であると思う。また、企業の方が香川にはしっかりとした町があるということ仰るが、ここでも「商工・サービス業の振興」の平均進捗度が高くなっている。しっかりとした町があり、働く人も安心して、ここで暮らせるというところは、香川の大きな強みであるのが見えていると思う。

それから弱みということになると、特にこの教育関係のところが悪い評価になっている。大学の数が少ないとか、文化・芸術・スポーツに触れる機会が少ないと感じられているとか、こういうところの弱みっていうのは出ていると思う。

このような数値評価は、数字の独り歩きの心配もあるが、その点を注意していれば効果はある。職員の意識にとっても、行政評価の結果を見ながら、自分の仕事はどのように評価されているのかという意識付けの効果があり、私自身はこのような数値評価には、一つの効果があると思っている。

転職の有無が踏み絵になっているという話だが、これは本当に改善していかなければいけない。企業の方と話す、採用の場面でこれまでの既成観念に囚われるという部分がどうしてもあり、特に女性の場合は、40歳後半とか50歳以上とかだと、書類で面接前に除かれるような人もいると聞いているが、実際は優秀な方がたくさんいると思う。

雇う側のマインドチェンジは、これからの人材不足の時代に重要であるし、雇われる側としても「私なんかもう歳で」と諦めている方のマインドチェンジも一方で必要だと思うが、これまでの既成観念ではこれからの人材不足に対応できないと思うので、企業の方にこれからもお願いしていきたいと思う。

川の中に森があるなどの問題は、これは昔からの課題で、特に中小河川で流れが悪くなり、溢れてしまう。ようやく最近、いわゆる国土強靱化予算が付いて、そういう川の中の森のようなものを伐採したり、浚渫したりする予算が国費で付くようになった。少しずつ進んできているので、土器川の森の話はまた個別に教えていただいて、国交省にも対応をお願いしていきたいと思う。

教育現場のタブレット、ICT教育について、現場でいろんな声が上がっている。これは上手く使えば、こんなに価値のあるものはないが、機器に使われるみたいなことになって、もうパソコンが止まったら授業はパソコンの改善をしているうちに終わってしまったという話もあり、何か本末転倒みたいなのところもある。先生方でも、苦手な人は、その先生の本当の良さを失ってしまうようなことにもなりかねない。機器に使われないように、パソコンをうまく使うようにしていくということは、教育現場ではなおさら大事だと思う。情報システムのサポート役のような方をどんどん強化していったらいい。若い人も使ってというお話もいただいたが、それも含めて、しっかりとサポート役を付けながら、パソコンを使いこなして、機器に使われないような教育現場にしていかなければならないと思う。

農業の法人化について、若い人やサラリーマンを退職した人など、農業をやりたい人が結構増えてきている。しかし、月曜日から金曜日までフルではできず、普通の農業の方と同じようにはできないが、少なからずやりたいと思う人がたくさんいる。そういう人をどうやって取り込むか、そういう意味では法人化というのも、大事なことだと思うし、農業についても、これまでの既成観念とは違う柔軟な発想で、働く人を取り入れられるようにしていかなければいけないと思う。

外国人材の受入れについて、私も本当にその通りで、これから受入れを加速化しないといけない。外国人材を受け入れるときに、何がネックなのか、いろいろ聞いてみると、やっぱり住むところの確保が必要で、これが企業だけではなかなか難しい。不動産屋では、外国人の方はちょっとご遠慮願いたいみたいなことが多いと聞いている。企業の方は切羽詰まって、いろんなところで動き始めて、人材派遣会社にも働きかけてという感じの話が出てきているが、我々行政の方で受入れ体制の整備として何ができるのかということは今、考えて動かないといけない。ぜひここは行政が動かないと進まないということ、また引き続きご指摘いただければと思う。

漁業関係で、136ページの「新規就業者漁船漁具リース支援事業」は何でやめてしまっているのかというご指摘があったが、これは個別に担当の方でフォローアップする。

この136ページにもあるように、制度は作ったが利用されないということがあり、これはたぶん制度があまり良くて利用ができなかったのだと思う。一回止めて、融資制度に変えたということだとは思いますが、そんなふうには目的としては要望に沿って目指しているが、制度があまり良くないケースもある。使える制度を作らないと意味がないので、個別にご指摘いただきながら進めていきたいと思うので、この件についてもきちんとフォローアップしたいと思う。

体験型の観光、これはいろんなところで言われており、特に外国の方が特に望まれていると言われており、うどん打ち体験のようなものが大好評だが、他にも色々な体験が考えられると思うので、工夫していきたいと思う。

文化芸術・大学全般に関するお話をいただいた。香川は歴史的にも伝統的にも文化芸術のDNAがあり、人材も裾野が広い。これから香川は文化芸術の県としてブランド化していかなければいけないと思う。

そういう意味で、美術館などで県民が芸術に触れる機会ということ考えた場合に、必ずしも文化芸術の歴史ある香川に相応しいものが揃っているかというと、他

県はどんどん良くなっているところがあり、努力していかないと、文化芸術の県と名乗るのはどうなのかなと思われることになってきそうなので、力を入れたいと思う。若い人や地域が大学に求めることは、香川の場合、全部ではないが、そういう文化・芸術があるのではないか。県内の大学で、文化・芸術に関して受入れるコースや学科が充実してくると、魅力ある大学にも繋がるのではないかと思う。

なかなかこの大学の魅力あるっていうのは、そう簡単なことではないと思うが、これからも大学と色々な意見交換をしたいと思う。

重要度・満足度は県政世論調査の結果だけでは不十分では、というご指摘は仰る通りであり、ここでいう重要度は、ニーズのような意味での重要度だと思うので、ニーズということだけではなく、長い目で見て或いは広い目で・エリアで見て重要かどうかということは、情報量もある行政側の方でもしっかり考えて、重要な施策としての提示をきちんとしていくことが大事であって、この県政世論調査の重要度が政策の重要度とイコールということではないということに留意しながら進めていきたいと思う。

「県外からの移住者数」は高評価だが、実際に定住しているのかということで、これについても、3年ぐらいでいなくなる方もいるのは事実である。この数字を鵜呑みにするわけにはいかないと思う。数値化に意味はあるが、鵜呑みにはしないようにしないと、一面しか現れていない面があるので、気を付けながら使わないといけないと思う。

香川しかないもの、これは本当に考えないといけない。先日のG7香川・高松都市大臣会合でも、各国の代表者から「こんなのは私見たことない」みたいな声が一番出たのは、直島へ行く時の船旅だった。船に乗って甲板に出た時に、

「Amazing!」とか「Splendid!」とか歓声がたくさんあり、見たことがないと仰っていた。香川県民は普通だと思っているが、これは世界でもなかなか味わえない。それだけじゃないかもしれないが、大事にしながら進めていきたいと思う。

[教育長]

高校生のヘルメット関係、しっかりと相談していきたいと思う。

いじめと不登校のお話もいただいた。いじめについては、最近は早期認知・早期対応ということで、決して認知件数が増えることイコール悪化という受け止めはしていない。法律の中でいう重大事態と位置付けられれば、すぐ対応できるような環境を整えていっている。

不登校については、令和4年度は過去最高を更新した。教育機会確保法という法律があり、その観点から言うと別に行かなくてもいいんじゃないかという意識も増えたのかもしれないし、コロナの関係もあったのかもしれないが、これに対しては長期化への対応と早期支援、そして未然防止という観点から取り組もうとされており、フリースクールの関係者や福祉関係者に集まっていたら、今まさに議論しているところである。その中で、未然防止としては、魅力ある学校を作っていくことだと思うので、その取組みを進めていきたいと思う。

行政評価の目的・メリットについて、その結果どうなったのかという、徐々にではあるが、この政策を遂行・立案する側のアウトカム志向が高まっているのではないかと感じている。

さぬきっ子安全安心ネットの話について、組織同士が連携すれば済むかもしれないが、私としては、できればこういう事業を受けられるような団体、いわゆる中間支援的な組織がしっかりとあり、そこで横軸を刺して動かしていく方が今後の時代には合っているのではないかと考えている。様々なところでやっているというご指摘だったので、改めてそこは確認しつつ、どんなやり方があるのかというのを考えたい。

それとICTについては、支援員は付けている。そして、個別最適の授業もしていかなければならない。しかし、地域や家庭でできることまで学校で担っている現状もある。ということは、それだけ先生が忙しいということである。教員の業務の適正化もしつつ、この個別最適な授業をすることは、授業技術と教材研究の時間をどれだけ取れるかということだと思っているので、やはり教師を支える体制をどう作っていくかということから良い循環に回していくことで、1人1台端末というツールを使って個別最適な学びを実践していけるのではないかと考えているので、そのような観点でICTの活用を考えていきたい。

最後に部活動、地域文化部活動について、今日の四国新聞にも香東中学校の吹奏楽部の話が載っていたが、市長・町長或いは市町の教育長に何件かお伺いして、この部活動の地域移行のことをお聞きした。文化部については外部指導者というだけでは相当難しいところもある。我々が心配しているのは、当面外部指導者で対応しても、その先どうなるのかということまで考えていかないと、これは先生の働き方改革という観点というよりも、今後子どもが減っていく中で子ども達の選択肢をどのように確保していくのかという観点から、考えなければいけないと思っている。

今は移行に向けた様々な実験を行い、そこから課題をあぶり出し、それをどう潰していくかということをお願いしている状況であり、少し時間もかかると思っている。

[政策部長]

行政評価を行った一つの成果として、コストの削減がどれぐらいできたか、それから意識改革がどの程度できているのかという質問について、お答えさせていただく。

昨年度から、行政評価として新しい手法ということで、施策の中で事業が相対的にどのように優先付けされているかを①・②・③で評価し、特に③になった事業について、廃止又は見直しを行うこととしている。

総合計画は83の施策で構成されているが、その構成されている83の重点的な施策にぶら下がっている事業が900事業ある。その900事業の予算額は、総額約1190億円であり、そのうち、約2割の200事業が③評価となっており、予算額で言うと約120億円である。つまり③評価となった事業の予算額は、900事業の総額の約1割である。しかし、200事業の半数ぐらいは廃止予定だが、約120億円のうち廃止予定が幾らかということ、分かり次第お伝えしたいと思う。

職員の意識についてだが、見直しの内容としては、廃止のほかに事業統合、事業費の縮減、実施手法の改善、対象の重点化のようなものがある。見直しの方向性を職員が考えているので、施策評価を実施することによって、コストや意識に若干効果が出てきているのではないかと考える。